

運動会 ありがとうございます!

子どもたちの育ち 如何でしたでしょうか。

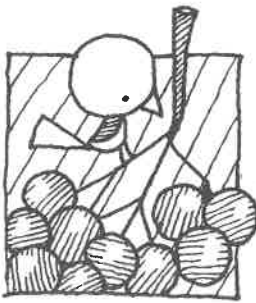
コロナ対策として、子どもたちの活やくを、ご家庭の皆さま方、沢山の方々に「ご覧いただけず誠に残念でございました。しかし、子どもたち精いっぱいがんばりました。おかげさまで、やったあ!という満足感と達成感を味わうことが出来ました。

■6月から4ヶ月間の幼稚園生活だった子どもたち、見事に期待に応えてくれました。

■つぼみ組の見学日の「あんないと入園願書」配布の「あんない」。

つぼみのおとたち、聞く力と待つ力が、かえはる力と身につけてきました。これからまだまだ伸びるし育ちます!

担任ふたりを中心にクラスのみとまりを見せてくれた年少組たち。この育ちは12月の生活発表会で、更なる心の広がりを見せてくれます。



半年前まで年少組だった年中組たち、一人ひとりからやる気がほとばしって大きな育ちを観せてくれました。来年が楽しみです。

さすが年長組たち、担任を中心にして、一人ひとりがしっかりと育って来ました。これからの半年間の育ちがとて楽しみです。さすがです!

つぼみ組の保育見学日は次のとおりでございます。

10月12日(月)
10月13日(火) } 午前中
10月14日(水)

つぼみ組の子どもたちの育ちぶりを「ごらんください」。

次年度年少組の入園願書の配布は10月15日(木)です。

朝8時から夕方6時までです。

つぼみ組入会希望用紙は見学日に配布して、10月16日(金)に受け取ります。

(心の育ちシリーズ) 捨てられたが蘇った日本の伝統的育児

戦後の昭和39年、厚生省は「母子手帳」を作成して全国の妊婦さんに配布しました。その「母子手帳」に副読本が付くようになりました。

副読本には「アメリカのように独立心を育てる為にも、赤ちゃんはひびで寝かせ、添い寝は良くない。抱っこおんぶはほどほどに、抱き癖が付いて苦勞するし、親子が疲れるから」と。アメリカ式育児を奨励し、日本古来の育児を否定したものでした。

これに反対して厚生省に抗議したのが、当時熊本大学産婦人科の潮谷愛一先生でした。2年間に亘ってアメリカ式育児が奨励されたが、「おんぶに抱っこ、添い寝は母と子のスキンシップに良い」という育児の方向に厚生省が180度転換したのが昭和60年でした。

しかし、これ2年に亘る子どもたちの育ちに変化があり、昭和40年頃に生まれた子どもが中高生になった頃、我が国にもアメリカ並みにはじめて校内暴力が起き、全国展開して生徒が教師に暴力を振ふる時代になりました。

渡辺京二さんの「逝きし世の面影」という本の中に、幕末・明治期に日本を訪れた外国人たちが「どうして日本人はこんなに子どもを大事にするのか!」「子どもたちは大人の言うことを守っている!」「日本は子どもの天国だ!」と書かれています。その時代に育った子どもたちが、明治期に優れた人材となり、日本国が急速に伸びていったのだらうと推測されています。

日本は昔から「抱っこにおんぶ」「おんべいと添い寝」は当たり前の子育てなのです。赤ちゃんの時から母と子のスキンシップが大きな力になっていた事が証明されたのです。

「完璧な子育て」はあり得ないでしょう。赤ちゃんがゼロ歳から親と子育てゼロ歳です。子育てには手がかかります。だから「育児」は「育自」であって自分を磨き育てることと言えるでしょう。 - 雑誌「致知」より -